

胃がんとは

川口市立医療センター

消化器外科

やました れい か
山下 麗香



胃がんは、胃の内側の粘膜にできる悪性の腫瘍で、日本をはじめ東アジア地域のかたに多くみられるがんの一つです。発症の主な原因は、ヘリコバクター・ピロリ菌感染、喫煙、塩分の多い食事、野菜や果物の摂取不足、遺伝的要因などが挙げられます。特にピロリ菌感染は、胃粘膜の慢性炎症を引き起こし、胃がんのリスクをさらに高めます。

早期にはほとんど自覚症状はありませんが、進行すると食欲不振や体重減少、心窩部(みぞおち)痛、吐き気、黒色便などの症状が現れます。早期の胃がんであれば内視鏡治療が可能な場合もありますが、症状によっては手術や化学療法、放射線治療が必要となるため、定期的な上部内視鏡検査により、早期に発見することが重要です。

治療法は、がんの進行度や患者の体の状態によって異なりますが、手術方法は、がんが胃のどの部分にあるかによって決まります。現在は、開腹手術に比べて体への負担が少ない「腹腔鏡手術」が一般的となっていることに加え、最近ではロボット支援手術なども増えてきています。抗がん剤による化学療法は、手術後の再発防止や、手術が難しい進行がんに対して行います。さらに、「分子標的薬」や「免疫チェックポイント阻害薬」などの新しいがん治療薬も登場しています。

予防には、薬の服用によるピロリ菌の除菌、禁煙、塩分を控えたバランスの良い食生活が有効です。胃がんは早期発見することで治癒が見込める病気のため、定期的に検診を受けましょう。

上手な医療のかかり方

皆さんの医療を守るために、ご協力をお願いします。



Point1 夜間・休日診療、救急車は重篤な急患のためにあります

● 病院に行くか、救急車を呼ぶか迷ったら「埼玉県救急電話相談」へ相談を！

☎ #7119
つながらない場合は
048-824-4199
(24時間365日対応)

● 子ども(中学生まで)の症状などの相談は「埼玉県小児救急電話相談」へ

☎ #7119または#8000
つながらない場合は
048-833-7911
(24時間365日対応)

● 埼玉県A！救急相談は、急な病気やケガの際に、家庭での対処方法や医療機関への受診の必要性を、チャット形式で気軽に相談できます。

埼玉県A！救急相談 ▶



Point2 気軽に相談できる「かかりつけ医」を持ちましょう

日頃の状態をよく知っている「かかりつけ医」であれば、ちょっとした体調の変化にも気づきやすいため、病気の予防や早期発見・早期治療につながります。また、病気や症状、治療法などの的確な診断・アドバイスを受けることができ、必要に応じて専門の医師や医療機関を紹介してもらうこともできます。かかりつけ医を持つと、日頃の健康相談や総合病院への受診など、判断に迷ったとき「どうすればよいか」の相談ができ安心です。どこで診てもらえばいいかわからないときは、「医療情報ネット(ナビイ)」を活用し身近な医療機関・かかりつけ医を探してみましょう。

医療情報ネット(ナビイ) ▶



厚生労働省「上手な医療のかかり方.jp」 ▶



保健所管理課

☎048-423-6614 FAX048-423-8852

川口市の 官民連携地域情報ウェブサイト

トコカワグチ



川口市の
お店やイベントなど
さまざまな情報が
集まっています！

きらり川口情報メール

ぜひご利用ください

暮らしに役立つ情報が満載



City Information

85.6 MHz

川口市 広報課 職員による
ちょっとくだけた！？ 市政情報番組

FM Kawaguchiで放送中

放送日：平日の10分間…10:00、13:50、17:50、20:00

ワンポイント 手話講座

いよいよ東京2025デフリンピックが11月15日(土)から開幕します。今日は開催にちなんで「水泳」と「卓球」を紹介します。

水泳

右手の人差し指と中指を足に見立て、手の甲を上にしてパタ足のように動かし、指先とは反対の方向に移動させます。



卓球

左手の人差し指と親指で輪を作り、ラケットでボールを打つように右手の甲で輪を2回前に打ちます。



障害福祉課

☎048-259-7926

FAX048-259-7943



ベーゴマの伝道師

株式会社日三鑄造所
川口ベーゴマクラブ

なかしま 中島

しげよし 茂芳さん

手のひらに乗る、小さな鍔物。一床と呼ばれる土俵の上でうなりをあげて回り、時には火花を散らして力強くぶつかり、相手のコマを弾き飛ばす「ベーゴマ」。スプーンの小さなくぼみにも投げ入れることができる正確な技術と幅広い知識で「達人」と呼ばれているのが、川口ベーゴマクラブ所属の中島茂芳さん。昭和の路地裏を思わせる懐かしい遊びを通して、世代を超えた交流を広げている。

「ベーゴマを最初に回したのは4歳くらい。技と工夫と駆け引きが詰まった奥深い世界にのめり込んでいきました。」生まれ育った群馬県太田市では当時ベーゴマが盛んで、宿題や家の手伝い以外の時間は全てベーゴマに費やした結果、地元で一目置かれるほどの腕前になった。

高校卒業後に上京し、デザイン会社で働く中、27歳でイン会社勤務を経て、27歳で会社を立ち上げ、広告業界で活躍。多忙な日々の中でベーゴマに触れる機会は減ってしまっていたが、あるとき仕事で関わったイベントのポスターでベーゴマ大会の存在を知り、久しぶりに参加したことで再びベーゴマ熱に火がついた。平成7年に日本ベーゴマ協会が発足するとすぐに入会し、毎週のようにベーゴマのイベントに参加して再び腕を磨いた。ナンジャタウンや花やしきなど昭和をモチーフにした都内の商業施設をはじめ、全国各地で講師を務めるようになり、ベーゴマの楽しさを広めていった。その活躍を見ていた全国唯一のベーゴマ製造会社である日三鑄造所の辻井社長に誘われ、50歳で転職を決意。まさに「天職」を得た。「ベーゴマのいいところは、子どもも大人も対等に勝負でき、

